

## IEA石油市場レポートの概要(2016年4月14日公表)

(代表部仮訳のため、正確には IEA のホームページを参照)

- 1 原油価格は、4月中旬、市場参加者が来る生産者会合において、未だに過大な供給過剰への対応策に合意するであろうという希望を有している最中に、ここ4ヶ月で最も高い価格に急回復した。これは、米国における生産の加速的減少の更なる証左である。レポート策定時点において、ブレント価格は44.30ドル/バレル、WTI価格は41.75ドル/バレルであった。
- 2 2016年の世界の石油需要の伸びは、2015年の180万バレル/日の増加を下回り、約120万バレル/日に弱まると見込まれる。これは、中国、米国、多くの欧州諸国にまたがる顕著な減速が根付くことによる。2016年第1四半期の暫定的データによれば、この動きは既に起きつつあり、前年比の伸びで見た場合、2015年第3四半期の230万バレル/日、2015年第4四半期の140万バレル/日の伸びの後、2016年第1四半期は120万バレル/日の伸びにとどまる。
- 3 OPECの原油生産は、3月に9万バレル減少し、3247万バレル/日となった。これは、イランからの更なる供給拡大やアンゴラからの供給拡大を相殺する以上の、ナイジェリア、UAE、イラクにおける引き続き供給減によるものである。サウジアラビアからの供給は、3月に下落したが、ほぼ1020万バレル/日を維持している。
- 4 世界の石油供給は、3月に30万バレル/日落ち込み、9610万バレル/日となった。前年比の伸びは、1ヶ月前の170万バレル/日、2015年の270万バレル/日から、20万バレル/日に縮小することとなった。OPEC非加盟国の2016年の生産見通しは、先月の本レポートからほとんど変化なく、2015年平均から71万バレル/日減少し、5700万バレル/日となる見込みである。
- 5 2016年第1四半期の世界の精製量は、前年比で120万バレル/日多い7930万バレル/日と見込まれるが、これは世界の需要増大に沿ったものである。2016年第2四半期の精製量は、前年比で80万バレル/日多い7970万バレル/日と予想されるが、110万バレル/日の需要増予想より低い伸びである。2016年前半の純増の全ては、OECD非加盟国における精製によるものである。
- 6 2月のOECD諸国の商業在庫は、季節的要因とは逆に730万バレル積み上がり、月末で30億6千万バレルとなった。この結果、平均レベルと比べた在庫過剰量は、月末に3億87百万バレルに拡大した。3月の暫定的なデータによれば、浮遊式貯蔵の原油量が増大し、OECD諸国の在庫は更に拡大したことを示唆している。